

分娩直後の抗菌性物質検査乳における体細胞数測定の意義

分娩直後の抗菌性物質検査乳（これからは初乳と略します）は、すべての分娩後の牛乳で検査が行われていますが、その検査は抗菌剤の検査であり、体細胞数を測定している農家は少ない。また、その時に体細胞数を測定していても、その数値を乳房炎予防に利用している農家は更に少ない。ここでは、初乳中の体細胞数を測定する意義とその利用法について述べる。

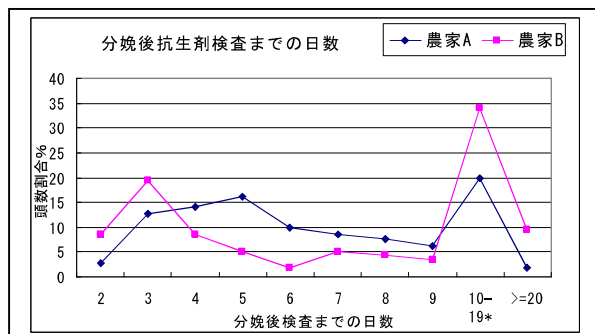
初乳の体細胞数検査について

ここでの初乳のサンプルは、バケットミルカーで搾乳したすべての分房乳からの合乳サンプルで測定した結果であり、前搾り乳や後搾り乳ではありません。また、分娩後できるだけ早く搾りきった方が、体細胞数は少なくなるものと推測できます。また、本当の初乳のドロドロ状況の牛乳では体細胞数は測定できませんので、分娩後数日を経た牛乳です。通常はもう出荷しようとする（農家の意思）牛乳サンプルでの体細胞数の測定です。

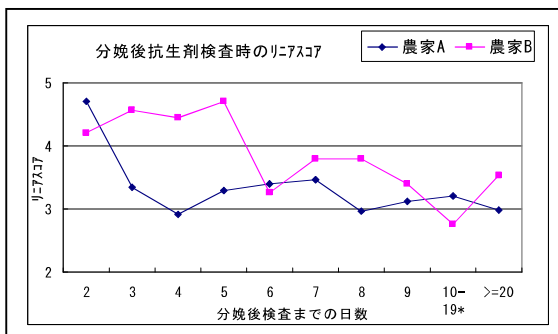
1. 分娩後何日で検査に出す？

分娩後どれ位の日数で、検査に出しているかを2戸の農家で調べてみました。共にフリーストール農家で、搾乳牛250頭と200頭位の大型の農家です。

グラフ1



グラフ2



グラフ1で、農家Aでは3日から5日くらいで検査に出している数が多いことがわかります。一方農家Bでは、分娩後3日目にしている数が多くなっています。一方分娩後10から19日目に検査に出すサンプルも多くあり、これらの牛は乳房炎、血乳、そのほかの病気で検査までに日数を要したと考えられます。

2. 分娩後何日位で、一番体細胞数は低下する？

グラフ2で、初乳検査時の体細胞数を見ると、分娩後4から6日程度が一番低くなる傾向がみられます。あまり早くに検査に出すと、高い傾向がみられます。これには分娩後どれくらいで初乳を完全に搾り切るかにかかわってくるかと思われませんが、できるだけ早く搾り切った方が、体細胞数は低下するものと推測できます。